

# 第1・2学年複式 国語科学習指導案

日時 平成16年9月17日(金)5校時  
児童 第1学年 男子 1名 女子0名 計1名  
第2学年 男子 2名 女子1名 計3名  
授業者 高橋 浩人

1年

- 1 単元名 よく きいて、あてよう
- 2 教材名 わたしは、なんでしょう  
(光村図書 小学校国語 1年上)

3 単元について

(1)教材について

第1学年の児童をはじめとして、児童は日常生活における話し方を生活の中で習得していく。しかし公的な場における形式の整った話し方の学習については、音声言語活動の場を位置づけて適切な支援をする必要がある。本教材はそういう公的な場で話したり、聞いたり、尋ねたり、応答したりすることの学習を行う教材である。児童は、みんなの前に立ち、敬体「です・ます」で話す。これは、日頃友達との会話などを通じて自然に身に付いている常体の文とは違い、やや形式の整った言葉遣いである。

また、クイズに参加する人どうしが、聞き手と話し手との立場に交互に立ちながら、必要感を持ち、目的と相手に応じて、尋ねたり応答したりすることを行う経験を通して、正確に伝え合う力が高まることを目指す。このような学習を進めることは聞き手が話し手を思いやり、話し手が聞き手を配慮してともに協力し合って通じ合いの基本とも言うべき心や態度を養うことにもつながると考える。

本教材では、あててほしいものを選び、その特徴(形や色、働き、役目など)を聞き手にわかりやすく説明することや、特徴を聞き落とさないようにしながら、興味をもって聞くことや質問したり、それに答えたりするなどの活動をしていく。その中で「知らせたい事を選び事柄の順序を考えながら相手にわかるように話すこと」と「大事な事を落とさないようにしながら興味をもって聞くこと。」を目指す。

1年生は1名なので、授業において話す相手は教師に限定される。しかし、発表会を学級で行うことにより2年生3人に話すのとスピーチ集会(全校)で話す機会を確保するのでみんなに話をするという形を取ることで、みんなの前で話をするという意識を持たせることができると思われる。

(2)児童について

1年生の児童は明るく、何事に対しても興味をもち取り組むことができる。1学期には、「たんけんしたよ みつけたよ」の学習で知りたいことを尋ねたり、話をよく聞くと言うことを学習してきた。「こんな ほんを みつけた」では自分の紹介したい本を2年生の前で話すことにより自分の思いを発表するという体験をしている。

日常会話をするという点では何の問題もないものの、学年1名ということもあり、普段の学習では教師と1対1のやりとりになり、相手を意識して話すという意識が希薄になりがちである。加えて、大勢の前で話をするという経験も乏しい。

また語彙の少なさから自分の思いを上手く伝えられないところがある。

N・T 自分の思いを話すことはできる。  
時々大切な点を聞き落とすことがあるものの、話を聞くことはできる。

(3)授業にあたって

学習活動は大きく2つに分けられる。1つ目はゲームをする準備段階として、出題用のカードを作成することである。これは児童に話すことがなくて困ることがないようにし、かつ、1年生の児童がみんなの前に立って話すことに参加しやすくするための工夫である。大人でも大勢の人の前に立ったとたんに頭の中が真っ白になってしまうことがあるが、1年生の児童の場合はそのような状態になることが多分に予想される。カードを持って前に立ち、忘れたならばまたカードを見ればよいという安心感をもたせ、できるだけ気楽に話す雰囲気を作るように心がけていきたい。

2つ目はみんなの前でクイズを出し、応答することである。いい加減に聞いたり聞き手を無視した話し方ではうまく進まないことは、参加してみれば児童にもすぐわかる。その時には、なぜうまくいかないのかを考えたりする時間を取って対応していきたい。

また、1年生の児童は1名なので受け答えの場面を2年生の協力を得ながら設定していきたい。

2年

- 1 単元名 話し方をくふうして はっぴょうしよう
- 2 教材名 あったらしいな、こんなもの  
(光村図書 小学校国語 2年上)

3 単元について

(1)教材について

第2学年において「話すこと・聞くこと」の学習は、他に小教材が2つあるが、単元としてはここだけになる。この学年の中心的な「話すこと・聞くこと」の学習を行うことになる。

学習活動は大きく3つに分けられる。1つ目は「あったらしいな」思うものについて自己決定すること。この学習では、児童たちの夢をふくらませることが大切で、規制の物事に縛られない自由な発想をさせたい。ただ、日常生活の中から必要性の感じられるものを見つけ出すという観点も認めてあげることにより、児童の想像力をふくらませることができる。

2つ目は、「あったらしいもの」を聞いている人にわかりやすく伝えるためにカードにまとめる作業である。この作業では、聞き手のことを十分に意識させて、聞き手にわかりやすく、そしてアピールするには、話す順序をどうしたらいいかを考えさせる事が可能になる。

3つ目は学級のみんなの前での発表である。発表の評価は内容に引きずられがちだが、国語科の学習では、まずどういう話し方がよいか焦点を当てることにより、わかりやすい発表をする力をつけることをねらいとする。

本教材では「話す・聞く」にかかわり、「あったらしいな」と思うものについてそれらがどんなものか、理由は何かなど、話す順序を考えながら聞き手に分かるように話すことや、発表者が「あったらしいな」と考えているものの名前や理由を落とさずに聞き、分からないことは質問することなどの活動を通じて、の「知らせたい事を選び事柄の順序を考えながら相手にわかるように話すこと」「大事な事を落とさないようにしながら興味をもって聞くこと。」を目指す。

2年生3人は、友達と1対1の発表練習の形からスタートするが、学級での発表、そしてスピーチ集会(全校)と発表の場が広がっていくことを常に意識させることができると思われる。

(2)児童について

2年生の児童は、学習に対して前向きな児童である。1学期には「ふきのとう」の前段の「私が見つけた春」の紹介の学習では友達に分かるように話すことと興味を持って聞くことの学習をした。「ともこさんは どこかな」では、特徴となることを選んで順序よく話したり、聞き落とさないように注意して聞くことを学習した。

個々の力に多少の開きはあるものの3人で活動していくのには支障をきたすほどのものではなく、複雑なことでなければグループで学習を進めることができる。

K・Y 興味・関心があるかないかにより聞く態度が大きく違い、集中しているときはしっかりと聞き取ることができるし、話をする事ができる。  
N・M 自分の考えを書いたり話したりするのに時間を必要とする。繰り返しによって身につけたことは、自信を持って行うことができる。  
Y・N 場に応じて話をする事ができる。大切な点をおさえて話を聞くことができる。

(3)授業にあたって

教材の冒頭には、テレビアニメ「ドラえもん」のキャラクターが登場していて、児童の興味を引きやすい。しかし影響が強すぎて、児童の発想が「ドラえもん」に出てくる物に限られてしまうおそれがある。あくまで自分の創意工夫から楽しい発表を目指したい。

また、学習活動の中では、話す事柄をカードに書き出して話す順番を考えることが求められている。カード1枚1枚には、たくさんのかきかせるのではなく、1枚に1つのことを書かせて自由に並べ替えることができるようなものを用意する。

話し方は、自分だけの評価である程度の段階まではうまくなるものの、その先なかなか上達できないことに陥ることがある。そのようなにならないためにも聞き手がどのようなアドバイスができるかがとても重要になる。聞き手にそのような意識を持たせて、発表に臨むように留意したい。

話し方の癖を気づかせるための一つの方法としてVTRを使っていく。

また、昨年度の既習事項を生かすことにより、1年生の児童の発表に協力をする場面を設定し、少人数の欠点を少しでもカバーしていきたい。

4 複式指導にかかわって  
1年生が1名だけという特殊な状況にあるので、「話す・聞くが広がっていくことを常に意識しながら練習するようにしたい。・聞き合いという場面では2年生と合同の活動を組み入れていかなければ成り立たない場面が生ずる。学習の流れを切らないように進めていく配慮が求められる。極力2年生が1年生に合わせるという感じで2つの学年の交流部分を設けていく。

5 単元の目標  
わたしはなんでしょうクイズの内容に興味を持って聞こうとする。  
(国語への関心・意欲・態度)  
当ててほしいものを選び、その特徴を分かりやすく説明することができる。  
(話す・聞く ア)  
クイズの内容の特徴を聞き落とさないようにしながら聞くことができる。  
(話す・聞く イ)  
クイズの内容を聞いてもっと知りたいことを尋ねることができる。  
(話す・聞く ウ)  
丁寧な言葉で話すことができる。  
(言語事項 ア(ア))

5 単元の目標  
「こんなものがあったら、楽しいな、便利だな。」と思うものを考え、それを学級の友達にわかりやすく伝えようとする。  
(国語への関心・意欲・態度)  
あつたらいいなあと思うものについて順序に気をつけて相手にわかるように話すことができる。  
(話す・聞く ア)  
話し方のどんなところを工夫すればいいかをアドバイスしあうことができる。  
(話す・聞く ウ)  
丁寧な言葉と普通の言葉遣いに気をつけて発表することができる。  
(言語事項 オ(ア))

6 指導計画(全4時間) 本時3/4

6 指導計画(全8時間) 本時6/8

評価規準	主な学習活動	時	時	主な学習活動	評価規準
			1	「ドラえもん」のVTRを観て発明品を考えて、発表しようという意欲を持つ。	話す相手(学級の友達)や話題(発明品)について見通しを持っている。
			2	「こんなものがあったら、楽しいな便利だな。」と思うものをたくさん考える。	
			3	発明品を一つに決める。	
	「わたしはなんでしょうクイズ大会」をする計画を立てる。	1	4	発明カードを用いて話す内容や順序をきめる。	わかりやすい発表になるように内容や順番を考えている。
問いの内容を聞き取り、もっと知りたいことを尋ねる方法がわっている。	クイズに正解するための話の聞き方を考える。	2	5		
丁寧な言葉で、趣旨がはっきりわかる話し方ができている。	問題を考え、クイズ大会の準備や練習をする。	3	6	発表練習をする。	発表カードをもとに、大事なことを落とさないように話している。よりよい発表に近づけるためにアドバイスできるように話の内容や話し方に気をつけて聞いている。
問いの内容を正しく聞き取ったり、もっと知りたいことを尋ねたりしている。	学級で「わたしはなんでしょうクイズ大会」を開く。	4	7	発表会をする。	質問や感想を言えるように聞こうとしている。アドバイスされたことを生かそうと話している。
	スピーチ集会に向けて練習をする。	発展	8	賞状を贈り合い、発表会の感想をまとめる。	内容や話し方のよかったところを認めあえるような、賞状を聞き手から授与している。
			発展	スピーチ集会へ向けて手直しをする。	
			発展	スピーチ集会へ向けて練習をする。	

7 本時の目標  
(1) 目標  
クイズを考えて、相手にわかりやすい話し方をしようとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)  
特徴が相手にわかるようにはっきりと話すことができる。  
(話す・聞く ア)  
丁寧な言葉で話す。  
(言語事項 ア(ア))

(2) 基礎・基本  
「です・ます」を使って話すこと。

7 本時の指導  
(1) 目標  
よりよい発表にするために話し方を工夫しようとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)  
自分の発明品の特徴がわかるように、順序に気をつけて話すことができる。  
(話す・聞く ア)  
丁寧な言葉で、はっきり話すことができる。  
(言語事項 オ(ア))

(2) 基礎・基本  
話す順序を整理すること。  
話し方(声の大きさ・速さ・口型)に気をつけること。

	支援と基準	学習活動	形態	学習活動	支援と基準	
導入 5		<b>1 課題をつかむ。</b> じょうずにクイズをだせるようになる。	5 5	<b>1 課題をつかむ。</b> じゅんじょや話し方に気をつけはっぴょうれんしゅうをしよう。	前時間での学習を振り返りながら、課題を把握できるようにする。	導入 5
展開 3 5	ものの名前を書き込めないときには、教科書「あそびにきてね」から動物を提示する。 A 当ててほしいものを決め、その特徴を見つけ、クイズを作る。 B 当ててほしいものを決めクイズを作る。特徴を見つけれないときは、ヒント(色・形・大きさ)を与える。	<b>2 教師と一緒にクイズの問題を作る。</b> 当ててほしいものの名前を学習シートに書き込む。 当ててほしいものの特徴を見つける。 <b>3 自分でクイズの問題を考えて、作る。</b> クイズを作ったらワークシートに問題と絵を描く。 作り終わったら出題の練習をしている	1 0 1 2	<b>2 ペアを確認し、発表練習をする。</b> 「お話の名人」のポイントを確認する。 ・順序よく ・内容を落とさず ・声の大きさ ・話す速さ ・口型 ・みんなの方を見て ・良い姿勢で 等 アドバイスしてあげる方は聞き上手カードで聞くポイントを確認する。 発表が終わったらアドバイスをしてあげる。 アドバイスをしてもらったならば、手直しを入れて練習する。 * ペアでない児童は最初「わたしはなんでしょうクイズ」の問題を考える。 <b>3 教師に聞かせる。</b> ペア練習で出されなかったところをアドバイスしてあげる。 * 発表してない2人は自分の発表練習に取り組む。クイズを考えていた児童も活動を切り替える。	前時間での学習を振り返りながら、課題を把握できるようにする。	展開 3 5
展開 3 5	A 丁寧な言葉を使いクイズを出す練習をする。 B クイズを出す練習をする。ワークシートをはっきりと読むように指示する。 小わたりを入れてその都度評価をしてあげる。 A 教師の質問に的を射て丁寧に答える。 B 質問に答える。質問された内容が分かっているかを確かめ、応え方を繰り返させる。	<b>4 教師と受け答えの練習をする。</b> 語尾の「～です。」の話形を意識させる。	1 0	<b>4 発表練習をする。</b> VTRを使って自分の発表の様子を振り返る。 A 話し方に気をつけて自分に足りない部分をよくしようと練習する。 B 話し方に気をつけて練習する。「お話名人カード」を見て、練習のポイントを決めさせる。 前時までアドバイされたことが身に付いているかを意識させ、	A 自分が決めたポイントに沿って順序を意識して発表す。 B 順序に気をつけて発表する。カードを出し順序を組み替えてみるようにさせる。	展開 3 5
	児童の言ったこと					

	を繰り返してどうすればうまくいくのかを考えさせる。			自己評価をする。	身に付いてないと思われる児童には、ポイントを決めて練習に向かわせる。
終末 8	<p>5 本時の感想を発表する。          どんな学習をしたのか2年生に教える。</p> <p>6 次時の学習内容を確認する。</p>	8	8	<p>5 本時の感想を発表する。          今日がんばれた点も入れて感想を発表する。</p> <p>6 次時の学習内容を確認する。</p>	終末 8